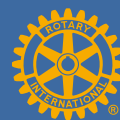


月信

GOVERNOR'S
Monthly Letter



Rotary

International
District

2740

VOL. 8

2026.2

2025-26 年度 ガバナー月信



中島 潔 作「花 童」



Rotary

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 国際ロータリー会長のメッセージ

つむ
未来へ紡ごう ロータリーの価値！

2025-26年度 国際ロータリー第2740地区 地区テーマ

Index

Governor's message No.8	1
ロータリー奉仕デー 環境美化 プロジェクト 報告	2
人手不足の時代に、私たちは“誰と働くか”	4
を問われている	
地区大会 「ファミリーの集い」 報告	5
2025年12月 米山学友総会・交流会 報告	7
地区国際青少年交換委員会 報告	9
第2740地区 職業奉仕委員会新聞	10
2025年11月 会員数・出席報告	11
新会員紹介・寄付者紹介	12
文庫通信	13
からつ勘右衛（かんね）話・編集後記	裏表紙

※誤字脱字以外は寄稿者の意向を尊重し原文のまま掲載しております

なぜ花は咲くのか？

2025-26年度 ガバナー 石坂 和彦

『なぜ花は咲くのか？』考えたことがおありでしょうか。

昨年末に、先輩ロータリアンからお聞きした言葉です。とても新鮮に感じました。

「日課である散歩のときに、自然の恵みへの感謝の言葉がふつふつと湧いてくる。大村城（玖島城）大手門跡の樹齢四百年の木々、石垣のたたずまい、それぞれが歴史の出来事を見てきたと思います。それとなく置いてあるベンチに腰掛け、見上げるこれらの景色にふと思いを巡らせる。目の前には、きれいな花が咲いている。なぜ花は咲くのか？」

今月のロータリー特別月間は、『平和構築と紛争予防』です。力強い言葉です。平和は構築するものであり、紛争は予防するものである！ との固い決意の表れです。ロータリーの、そしてロータリアンの固い決意です。

なぜ花は咲くのか！

自然の恵みはあたりまえのことではなく、一人ひとりの温かいまなざしと、それを愛する心があるからです。もちろん種から育つ花の生命(いのち)の強さがあります。平和構築と紛争の予防、その答えをここに私は見出します。せっかく咲いた花、これは奇跡といっていいでしょう。その花に心を打たれ感動する。この心は戦争を絶対に望みません。平和である日常への感謝の心で満たされています。平和構築の対極は戦争ではありません。花の美しさを感じることができないこと。心が動かされないこと。何もしないことです。

平和は、構築しないことには得ることができません。ロータリーは創設以来ゆるぎなく平和の構築を叫んできました。構築することに、始まりはあっても終わりはありません。世界平和を求めるロータリー運動もそうです。動き続けるしか道はありません。ロータリーの花を咲かせ続けることです。

『未来へ紡ごう ロータリーの価値！』

今日も世界は動いています。動き続けるロータリー。素晴らしいことです。

ロータリー奉仕デー 環境美化プロジェクト 報告

全国ロータリー奉仕デーを通じて、第2740地区のロータリアンが一致団結し、環境保全に取り組むことを目指して、さまざまな環境美化プロジェクトが実施されました。

* 環境保全事業 *



- 海岸や河川に流出したプラスチックゴミの回収清掃
- 山野の植樹・森林の育成
- 河川の清掃・魚や蛭の棲む清流の保全
- 街路の清掃
- 歩行者道整備
- クリーンエネルギーの推進

佐世保東 RC (10/16)

ハウステンボス付近海岸でプラスチックごみ回収清掃
及び (福)博仁会 経営の「博仁荘」にて慰問演奏会



長崎北 RC (10/19)

阿保下海岸：漂着したプラスチック・ゴミの回収清掃



大村 RC (10/26)

地区補助金事業「ガラスの砂浜環境美化プロジェクト」
大村RC・向陽高校IAC



長崎南 RC (10/26)

松の森通り周辺の清掃活動(長崎市西山町)



牛津 RC (10/31)

JR牛津駅前の除草作業・清掃作業



佐賀大和 RC (11/11)

街路の清掃：高速側道のゴミ拾い



武雄 RC (11/11)

白岩体育館周辺の清掃作業



神埼 RC (11/22)

吉野ヶ里文化体育館近隣付近の清掃



大村東 RC (11/24)

大村市森園公園にて海岸や河川に流出した
プラスチックゴミの回収清掃



佐賀西 RC (11/29)

街中環境美化運動:佐賀駅からの中央通りに設置された
佐賀の偉人達のモニュメントの清掃活動



佐世保中央 RC (12/6)

創立35周年記念市民交流コンサート開会式におけるロータリー奉仕デー寄付金贈呈式

今年度佐世保中央ロータリークラブは創立35周年ということもあり、毎年恒例の清掃活動ではなく、令和7年12月6日にアルカス佐世保で開催された佐世保中央ロータリークラブ創立35周年記念市民交流コンサートの開会式のなかで、ロータリー奉仕デー寄付金贈呈式を行いました。寄贈先は地区の方針に倣い、させぼ子供食堂ネットワークの皆様と、佐世保出身で福岡を中心に活動されている明日カフェ様(天神の警固公園に集まる少女たちを支援する組織)に各10万円ずつ寄付をしました。たくさんの観客の皆様の前で、両団体に活動報告をしていただいた後にロータリー奉仕デーの説明を行い寄贈できたことは、それぞれの団体やロータリーの活動内容をたくさんの皆様に周知することができ、有意義なイベントとなりました。

佐世保中央ロータリークラブ 創立35周年記念 無料 定額 350円

市民交流コンサート

2025年12月6日(土)

開場 12:30 開演 13:00~

in アルカスSASEBO イベントホール他

大山由緒 特別出演

協賛ブース販売

特別展示

協賛団体: スペシャルオリンピックス日本・義経 (別途エリアにて活動内容を案内します)

主催: 佐世保中央ロータリークラブ

事務局: 佐世保市下町 10-6-306 TEL 9956-25-5595



人手不足の時代に、私たちは“誰と働くか”を問われている

地区国際青少年交換委員会 委員長 徳永隆信（有田 RC）

近年、地方における人手不足は深刻さを増し、外国人労働者の受け入れは、もはや将来の課題ではなく、現実的な経営課題となりました。

一方で、多文化共生という言葉とは裏腹に、短期的な労働力確保に偏り、教育や将来性を十分に見据えられていない現状も見受けられます。技能実習生を巡る不法滞在などの問題は、その象徴と言えるでしょう。

真の多文化共生は、制度だけで実現するものではありません。異文化や価値観の違いを理解し、言語や背景の異なる人材と共に働く姿勢を、受け入れる側である私たち経営者自身が身につける必要があります。地方で英語や国際対応に不安を抱える声もありますが、それは「地方に仕事がない」からではなく、これまでの職場環境や発想の延長で考えてきた結果とも言えます。

今回の地区大会では、次世代を担う学生たちのマニフェストを掲示し、未来への思いをロータリアンの皆様と共有する機会を設けました。大会を観覧された保護者の方から、次のような感想が寄せられています。

【候補生保護者の声(地区大会参加の感想)】

よりよい社会・世界平和を目指した情熱をもったロータリアンの集いは、非常に熱気に満ち、勢いを感じるものでした。未来を担う子どもたちの夢を、「留学支援」という形で後押しされている姿勢に深い感動を覚えました。講演会やパネルディスカッションでは、インバウンド生の率直な思いや第一線で活躍されている方々の生き様に触れ、本人も大きな刺激を受けました。大会後には、その感動を共有し、今後の研修や留学に向けた意欲を改めて確認することができました。本人・保護者ともに未熟ではありますが、本プログラムを通じて一歩ずつ成長していきたいと考えています。

（候補生：正司浩大 保護者：正司博文）

次世代の経営者は、確実に労働力不足と多文化社会に直面します。

これまでロータリークラブが培ってきた会員同士の信頼関係や親睦は、大きな財産です。その土台の上に、経営に必要な新たな視点や学びを重ね、地域に新たな雇用と価値を生み出す役割を、今後さらに発展させていくことが求められていると考えます。

本プログラムは、理想論ではなく、今まさに直面している課題に対して即効性のある一助となる取り組みです。地元根差し、次世代につながる「地元還元型のボランティア」として、ロータリーだからこそできる形を、交換留学プログラムを通して、皆様と共に築いていければ幸いです。



2025-26年度 地区大会「ロータリーファミリーの集い」報告

地区ロータリーファミリー委員会 委員長 徳川 清隆 (唐津 RC)

今年度、地区大会は佐賀県唐津市文化体育館にて10月24日から26日にかけて開催されました。テーマは「若者が紡ぐ、世界をつなぐ希望の絆」、青少年達それぞれがステージを盛り上げてくれたことは皆様にもまだ記憶に新しいと思います。

この「ロータリーファミリーの集い」は、今回初めて企画したのですが、本会議場に隣接する文化ホールを会場とし、本会議が始まる前の午前中の時間を使い、ロータリーファミリーや一般の方々が参加できるようにしました。そして、ロータリアンと青少年達が共に学び、未来につないでいくための絆の醸成、一般参加者の方々に、ロータリーへの理解が促せるよう期待しました。更に、将来への気づきや課題を見出し、今後のロータリー活動に活かされればと考えました。

当日のプログラム内容は、開会前の歓迎演奏(唐津西高吹奏楽部有志)から始まり、開会点鐘後、国歌斉唱、ロータリーソング斉唱(インターアクトの歌、ロータリーアクトの歌、奉仕の理想)、石坂ガバナー挨拶、来賓・参加者紹介と進んでいき、セミナー・活動事例発表の構成となっています。セミナーと活動事例発表は、以下の通りとなります。

■セミナー1 「つながることができる居場所」 講演者 数山有里様(長崎・佐世保子ども食堂ネットワーク代表) 親子がほんとに安心できる居場所を通して子どもたち親たちの見守りを行い、共感し「つながる」ことを大切に活動されており、その活動に対して私たちができることを考えさせていただきました。

■セミナー2 「佐賀県フードバンク連合会」 吉山耕一郎様(佐賀県フードバンク連合会代表) 食品ロスの削減と生活困窮者支援を目的に活動されており、地域全体で「もったいない」を「ありがとう」に変える取り組みを進めながら、佐賀県内の食品アクセス機構強化に



取組んでいることを聞き、地域課題へのニーズにどの様に取り組めるかのヒントを頂きました。2026年1月佐賀県内一斉フードドライブを実施予定との事です。

■活動事例発表 「厳木から Well-Beingな未来へ」 早稲田佐賀高 Team生あんこ様 唐津市厳木を拠点に高校生喫茶を軸とした第2の実家的居場所づくりを行っており、その中で、1960年代まで食べられていた郷土料理「ずうし」を提供するため地元の方と試作を行ったり、企業と協力して商品化を目指したりと、これまでのプロセスを発表されました。そして、生徒さんたちの発表パフォーマンスも見応え十分でした。2026年2月喫茶店開催にむけて取り組んでいきますとの事です。

その後、ロータリアンは本会議場へ参加、インターアクターは分科会に参加しセミナー講話を聴いてのグループディスカッション、グループ代表者の発表へと進み閉会点鐘となり、インターアクターも移動し本会議場にて合流となりました。

最後に講演をいただきました数山有里様、吉山耕一郎様、早稲田佐賀高 Team生あんこ様へ感謝とお礼を申し上げます。また、最後までご参加頂きました会場の皆様、ロータリーファミリーの皆様、司会を担当して頂いた RYLAリアン・唐津西高インターアクトの皆様、歓迎演奏の唐津西高吹奏楽部有志の皆様、事前準備を行って頂きました唐津西高ボランティア部の皆様、そして、ご支援ご協力頂きました関係者の皆様方、改めてお礼と感謝を申し上げ報告いたします。



2025年12月 米山学友総会・交流会 報告

地区米山奨学会・学友会会長 劉鴻源 (嬉野RC)

〈奨学生〉

今回の米山学友会が主催する総会は、多様な国の料理や文化に一度に触れられる、非常に貴重な機会となった。多くの留学生にとって、自国料理を多人数分準備することや人前で母国文化を紹介することは決して容易ではなかったが、心を込めて協力しながら準備を進める中で、文化を伝える意義や仲間との連携の大切さを実感する機会となり、参加者同士の自然な交流と相互理解が生まれた。

(佐世保北RC・韓国出身キムさん)



司会を務めた奨学生からは、初めてこのような貴重な機会を得て、会場全体の雰囲気を感じ取りながら進行する中で、心の温かさはしっかりと伝わって、楽しい会話を交わすことができ、心に深く残る大切な思い出となったとの声が寄せられた。

(長崎西RC・マレーシア 出身イマンさん)

奨学生として最後の参加となり、感慨深いです。母国の舞踊を披露できたことを大変光栄に感じた。来場者が楽しむ様子を目にし、大きな喜びを感じるとともに、自身の文化を共有し、他者の多様な文化に触れる貴重な機会であったと振り返っている。また、世界各地から集まる奨学生を家族のように温かく迎え入れてくださるロータリーの存在に深い感謝を表します。

(長崎東 RC・インド出身奨学生 Barkha さん)



総会を通じて、多くの学友やロータリアンと再会・交流することができ、笑顔あふれる雰囲気の中で会話を楽しみながら、さまざまな国の料理を味わって過ごした時間は、心温まる安心感のあるひとときであった。この会は、国籍や立場を越えて自然につながれる、まるで第二の家族、第二の居場所のような存在である。このような貴重な機会を提供して下さった学友会、奨学生、ならびに関係者の皆様に深く感謝の意を表したい。ここで得た出会いと支えへの感謝を胸に、今後も前向きに歩んでいきたい。

(佐世保南 RC・ベトナム出身ゴックさん)

〈学友〉

今年度本地区の学友に加え、第2820地区および第2710地区からも参加があり、地区を越えた交流の場となりました。また、他県で就職されている元本地区学友の方々も遠方よりご参加いただき、大変意義深い総会となりました。

本活動は学友主催ですが、少人数で構成される本地区にとって、奨学生は活動全体で欠かせない存在です。参加者全員が各国の特色ある料理を味わい、ゲームやパフォーマンスに積極的に参加したことにより、自然な異文化交流が促進されました。こうした交流は会場の雰囲気を盛り上げるだけでなく、各国の文化理解を深め、知らず知らずのうちに世界の平和と友好にもつながる活動となりました。

学友と奨学生、ロータリアンが協力し、互いに助け合いながら活動を円滑に進めることができました。その力はまさにロータリークラブの歯車の徽章のように、活動全体を支え着実に発展させました。交流を通じて、異文化のみならず多様な経験も共有でき、本当に学びの多い貴重な機会となりました。



これからも学友間の交流をより一層深め、多くの方々との貴重な交流の機会を継続的に創出していくことを願っております。

最後に、ご多忙のところ本地区学友総会にご来場いただいた皆様に、改めて心より感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第6回 オリエンテーションクリスマス会 活動報告書

地区国際青少年交換委員会 委員長 徳永隆信（有田 RC）

2025年12月21日(日)、武雄東洋館において、11時より第6回オリエンテーションおよびクリスマス会を開催しました。

インバウンド学生によるスピーチでは、それぞれの母国におけるクリスマスについて紹介があり、最後は全員が「メリークリスマス」の言葉で締めくくりました。学生たちのクリスマスを祝う温かな気持ちが伝わる印象的なスピーチでした。

また、今月で留学期間を終えるダニエルくんからは、留学生活への感謝の言葉と、将来の夢が決まったことについてスピーチがありました。「生まれ変わっても、もう一度この留学を経験したい」という言葉に、私たち委員会の活動が報われた思いがしました。彼のあふれる感謝の気持ちは、参加者一同の心を強く打ちました。スピーチ後には、日本語能力試験の合格通知書およびディプロマ(留学修了証明書)が手渡されました。



さらに、現在留学中のアウトバウンド学生3名がZoomで参加し、海外でクリスマスシーズンを過ごしての感想や、現地での悩みなどについて報告がありました。オリエンテーションに参加していたROTEXからのアドバイスは、同じ経験をした先輩だからこそ語れる内容で、すぐに実践できそうな有益なものでした。また、西山くんのホストファミリーが「ぜひ挨拶をしたい」と画面に登場し、西山くんのお母さんと直接会話ができたことも、心温まる場面となりました。

会食では、和食を楽しむインバウンド学生たちの姿が印象的でした。委員長が手配した長いロールケーキは大きなインパクトがあり、皆が写真に収めていました。参加者が持ち寄ったプレゼントは、今回は紐を引いて当たったものを受け取る方式とし、どれが当たるかというワクワク感で大いに盛り上がりました。

一方で、ベネさん以外のインバウンド学生の日本語習得が、思ったほど進んでいないという点は、

委員会メンバー共通の課題として感じられました。今後は、日本の文化や日本そのものにより興味を持ってもらえるような働きかけを工夫していきたいと考えています。

最後に、学生たちが「日本に留学して本当に良かった」「母国に帰ったら、日本は最高で素敵な場所だと伝えたい」と思えるような経験を、これからも提供していけたらと強く感じました。



第 2740 地区 職業奉仕委員会新聞

発行：職業奉仕委員会
2026 年 令和 8 年 8 号

八 号

第2740地区
職業奉仕委員会 新聞

「奉仕の理想」と「奉仕の理念」

梅吉翁は、The Ideal of Service を「サーヴィス理想」と訳したが、神戸RCの外国語禁止提案（1934）によって、これが「奉仕の理想」に書き換えられた。そのため重大な誤解が生じた。なぜなら、近世に「Serviceと奉仕」の関係が変化したからだ。近世において、Service（仕えること）は「人の役に立つ働き」と「果たすべき務め」という意味をもった。一方、奉仕（仕えること）は「見返りを求めない」という意味と「尽くす」という意味をもったのだ。

The Ideal of Service を説明する言葉として「事業の基礎」と「他人を思いやり、他人のために尽くすこと」が知られている。ただし、前者の原義は「Enterprise（企業）のBasis（基本原理）」であり、後者の原義は「Others（他者）へのThoughtfulness（配慮）とHelpfulness（有用性）」だと考えられる。

1927 年、The Ideal of Service は「他者への配慮・黄金律・二つの標語」によって表されるものと定義された。なお、二つの標語が示しているのは「二つの理念」ではなく「一つの哲学とその原理」だ。

二つの標語の一つである Service Above Self は、1934 年に「超我の奉仕」と訳されたが、2005 年に、その真意が「Self（利己心）よりも Service（お役立ち）の方が、より多くの利益を生む」ということだと判明した。

もう一つの標語である He Profits Most Who Serves Best（1911）は「サーヴィス学」という経営学の原理であり、His Fellows（自分の仕事相手）が省略された状態なのだ。Fellows とは、事業主から見て「顧客・従業員・取引先など＝利害関係者」のことだ。つまり、この標語の趣旨は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」ということではなく「利害関係者に対し、最善の Service（お役立ち）をする者が最大の利益を得る」ということだ。

事実、英国のロータリーが「この標語は品がない」として、この標語の廃止を求めている。また、公式文書（1923）にも「この標語は Practical（現実的）で Ethical（合理的）な Principle（原理）である」と明記されているのだ。

1915 年、Principle＝目標とすべき Ideal（理想的な原理）であることから、この原理は The Ideal of Service（サーヴィスの理想的な原理）と呼ばれた。この原理は 1918 年に「企業の基本原理」として推奨され、1922 年には「この原理を、生活に適用（Application）すること」が推奨された。

2012 年、The Ideal of Service の邦訳は「奉仕の理想」から「奉仕の理念」にかえられた。しかし「奉仕の理念」は「自分の利益よりも、他者の利益を優先するという理念」だ。一方、The Ideal of Service は「自分の利益と他者の利益を同等にするための原理」だと考えられる。

地区職業奉仕委員 岩谷 正彦

各クラブの会長・幹事・職業奉仕委員会の方へ例会でこの新聞の紹介をお願いします

職業奉仕 WEB ラーニング 参加者募集

2025-26 年度 3/18、5/20

水曜日 19:00 より 20:15 まで

職業奉仕の基礎を一緒に学びましょう。
参加には事前申し込みが必要です。➡



こちらの勉強会はメーキャップ対象の研修会となります

2025 年 11 月会員数・出席報告

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数			当該月			累計	
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会		増減
第1グループ	佐賀	4	78.4	73	7	75	7	0	0	0	2
	小城	4	60.6	28	4	28	4	0	0	0	0
	牛津	3	70.2	24	0	25	0	0	2	-2	
	多久	4	68.3	31	6	32	6	0	0	0	1
	佐賀大和	3	66.3	22	6	23	6	0	0	0	1
	小計		68.7	178	23	183	23	0	2	-2	5
第2グループ	佐賀西	3	84.4	39	4	42	4	1	0	1	3
	佐賀北	2	70.0	44	3	44	5	0	0	0	0
	佐賀南	4	64.8	46	6	47	5	0	0	0	1
	神埼	4	76.4	39	4	40	4	0	0	0	1
	佐賀空港	3	56.8	17	0	17	0	0	0	0	0
	小計		70.5	185	17	190	18	1	0	1	5
第3グループ	有田	3	72.9	27	2	27	2	0	0	0	0
	武雄	2	80.7	40	2	44	2	0	0	0	4
	鹿島	2	90.7	25	5	27	5	0	0	0	2
	嬉野	4	83.3	24	2	24	3	1	0	1	0
	大町	4	75.0	12	0	13	0	0	0	0	1
	太良	2	88.9	9	0	9	0	0	0	0	0
	小計		81.9	137	11	144	12	1	0	1	7
第4グループ	唐津	3	83.3	55	0	55	0	0	0	0	0
	伊万里	4	94.2	25	1	26	1	1	0	1	1
	唐津東	4	84.1	49	2	49	3	0	1	-1	0
	唐津西	3	75.7	27	1	28	2	0	0	0	1
	伊万里西	4	83.8	34	5	34	5	0	0	0	0
	唐津中央	4	86.2	33	4	34	4	0	0	0	1
	小計		84.5	223	13	226	15	1	1	0	3
第5グループ	佐世保	4	80.0	81	1	83	2	0	0	0	2
	平戸	4	60.7	22	3	22	3	0	0	0	0
	北松浦	4	88.0	25	2	23	2	0	0	0	-1
	佐世保西	3	69.4	22	6	24	6	0	0	0	2
	松浦	4	88.0	25	0	26	0	0	0	0	1
	小計		77.2	175	12	178	13	0	0	0	4

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数				当該月			累計
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会	増減	
第6グループ	佐世保南	4	100.0	60	3	65	3	1	0	1	5
	佐世保東	2	65.3	25	1	27	1	1	0	1	2
	佐世保北 (衛星クラブ14)	2	95.9	54	6	54	6	0	0	0	0
	佐世保中央	4	75.0	52	2	56	2	0	0	0	4
	佐世保東南	2	68.0	25	0	24	0	0	1	-1	-1
	HTB佐世保	4	86.9	23	4	23	4	0	0	0	0
	小 計		81.8	239	16	249	16	2	1	1	10
第7グループ	大 村	4	79.6	41	4	40	3	0	0	0	-1
	島 原	4	72.0	24	3	26	3	0	0	0	2
	大村北	4	84.2	26	1	27	1	0	0	0	1
	島原南	3	60.7	17	2	17	2	0	0	0	0
	大村東	2	79.6	36	7	37	7	0	0	0	1
	小 計		75.2	144	17	147	16	0	0	0	3
第8グループ	諫 早	3	55.4	68	0	70	0	0	0	0	2
	諫早北	3	71.7	74	3	77	3	0	0	0	3
	諫早西	3	85.2	46	3	44	3	0	0	0	-2
	諫早多良見	4	96.5	24	1	23	1	0	0	0	-1
	雲仙 諫早南	2	75.0	12	3	12	3	0	0	0	0
	小 計		76.7	224	10	226	10	0	0	0	2
第9グループ	長 崎	3	80.3	60	2	64	3	0	0	0	4
	福 江	2	58.4	30	0	30	0	0	0	0	0
	長崎北東	3	85.8	34	2	34	2	0	0	0	0
	福江中央	3	80.4	18	2	18	2	0	0	0	0
	長 崎 西	3	67.7	33	1	34	1	0	0	0	1
	小 計		74.5	175	7	180	8	0	0	0	5
第10グループ	長 崎 北	3	78.4	67	2	71	3	0	0	0	4
	長 崎 南	3	71.9	63	2	63	2	0	0	0	0
	長 崎 東	4	82.6	39	2	39	2	0	0	0	0
	長崎みなと (衛星クラブ10)	3	80.2	33	7	34	7	0	0	0	1
	長崎中央	2	92.0	42	1	44	1	0	0	0	2
	長崎出島	2	67.1	69	10	71	11	0	0	0	2
	小 計		78.7	313	24	322	26	0	0	0	9

* 上記の表の新入・退会は当月中の数字で、累計は
2025年7月1日から2025年11月末までの増減です。

54クラブ合計 77.3 1,993 150 2,045 157 5 4 1 53

新会員紹介

私たちの新しい仲間になられました方々を紹介します。



佐賀西RC
中原 優作 君
中原税理士事務所
所長税理士



嬉野RC
香田 大蔵 君
(株)リブワン
代表取締役



伊万里RC
加志田 浩一 君
伊万里神社
宮司



佐世保南RC
湊 征学 君
(福)西友会
理事 施設長



佐世保東RC
野中 亮史 君
(株)陽向工業
代表取締役社長

※氏名の下部は勤務先、役職

※今月号に掲載が間に合わなかった新会員の方のご紹介は、次号に掲載させていただきます。

寄付者紹介

ご厚意に深く感謝申し上げます。認証者の方を記載いたします。

※ ロータリー財団 ※		
種 類	氏 名	クラブ名
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	三山 格	長崎RC
	竹山 なおき	長崎北RC
ポール・ハリス・フェロー	小島 清辰	伊万里西RC
	永松 真利子	唐津中央RC
	和田 大介	松浦RC
	岩永 和之	長崎北RC

※ 米山記念奨学会 ※		
種 類	氏 名	クラブ名
マルチプル	荒木 範光	鹿島RC
	山浦 義行	伊万里RC
	八江 正光	諫早RC
	三山 格	長崎RC
	植木 博路	長崎東RC
米山功労者	川原 浩心	唐津東RC
	小島 清辰	伊万里西RC
	葛城 正也	佐世保南RC

米山功労クラブ		鹿島RC
米山功労クラブ		伊万里西RC

ポリオ・ワンコインBOX報告

今月分BOX金額	238,607円
累計金額	1,756,998円

文庫通信 395号：会員研修 ロータリーについて 講演・月信より

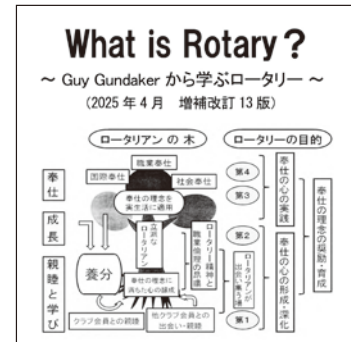


HP



395号

- 「What is Rotary? ガイガンディガーから学ぶロータリー 2025年4月増補改訂13版」 鈴木一作/D.2840/71P
- 「新会員研修会資料」 大賀茂功/D.2700/ロータリー情報委員会/79P
- 「今、ロータリーを考える」 刀根荘兵衛/D.2600地区大会報告書/7P
- 「ロータリーの変化と行動」 野口英一/37P/7395-4
- 「わかりやすいロータリー財団テキスト」 D.2580地区大会報告書/9P
- 「ロータリーの豆知識 月信抜粋」 D.2530/17P
- 「私のロータリー」 土屋亮平/D.2790/4P
- 「慈愛の種をロータリーの『内向きの奉仕』にも播こう！」 小林博/D.2510/3P



PDFの閲覧には「ユーザー名」「パスワード」が必要です。
ご不明の場合は、各事務所またはロータリー文庫にお問い合わせください。

ユーザー名……………rotary

パスワード……………bunko

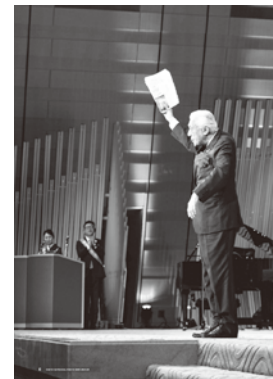
※半角英字(小文字のみ)

*〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目7番16号 第3小森谷ビル別館6階
TEL: 03(3433)6456 FAX: 03(3459)7506 *

アーカイブよりおすすめの一冊

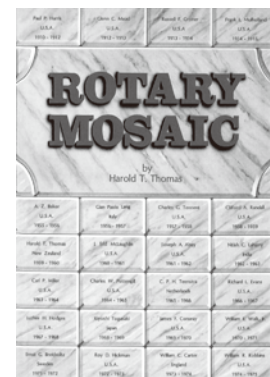
地区大会講話「夢は現実に」

故、千玄室元RI理事の2650地区大会(2023-24年度、2024年4月開催)でのご講演論文をご紹介します。長きにわたるロータリーへの多大なご貢献と平和への思いを偲び、ここに心からの哀悼と敬意を表し、皆様にぜひご一読いただきたく存じます。合掌。



ロータリー・モザイク

「モザイク」は色も形も異なる多種多様なタイル片が組み合わさって美しい模様をつくる。ロータリーも異なる人種、言語、宗教、そして多様な考え方を持つ人々が集まり協力し合うことで、大きな目的を達成できる、「ロータリー・モザイク」なのです。この本は、1959年度RI会長のハロルド・T・トーマスが、1905年から1970年代までのロータリーの歴史と思想の移り変わりを解説しており、著者の見たロータリーの進化の物語です。(翻訳:1961年度D370地区(山口・九州)ガバナー松本謙二郎)



からつ勘右衛 (かね)話



【第8話 黄金の茶釜 (第7話 狐退治の続き)】

今日は、かねどんの、黄金の茶釜の話ば、しゅうだい。

鏡山のふもとにある恵日寺は松浦佐用姫伝説にゆかりのある格式の高い寺です。その和尚様が骨董品好きな事を知っていた勘右衛は、狐に化けさせた茶釜を持って恵日寺に来ました。勘右衛は「これは我が家の家宝で、太閤秀吉(豊臣秀吉)が朝鮮出兵の時に築城した名護屋城の黄金の茶室で使われた黄金の茶釜と伝えられております」と話し、二百両で和尚様に譲りたいと申し出ます。どうしてもその茶釜が欲しくなった和尚様は寺中の金を集めて、その茶釜を買い取りました。



翌日、和尚様はその茶釜を炉にかけると、茶釜に化けていた狐は大やけどを負って逃げて行ってしまいました。勘右衛に舐められた事が分かった和尚様は急いで勘右衛の家へ出向きます。「おい勘右衛！舐めたな！」と、勘右衛の家に怒鳴り込む和尚様でしたが、出てきたのは丹前を着て疲れ果てた姿の勘右衛でした。和尚様は事の顛末を話し、お金を返すように言いましたが、勘右衛は不思議そうな顔つきで言いました。「私は風邪をひいて5日前から寝たきりで、1日も家を出たことはなかくです。もしかしたら、その茶釜を持って来た勘右衛も狐で、和尚様は狐にだまされたとじゃなかですか？」それを聞いた和尚様は「くそ！狐から舐められて大損したバイ！」と、愚痴をいながら寺へと帰って行きました。

今日の話は、こいばっかい。

(富岡行昌 著 『かねばなし』より)

編集後記

新しい年を迎え、早2月となりました。2月といえば節分です。AIで節分について少し調べてみました。

ルーツは大変古く古代中国で行われていた「追儺(ついな)」という行事だそうです。奈良、平安と形を変えながら、豆まきが始まったのは室町時代だそうです。「魔滅(まめ)」という語呂合わせなどが影響したと言われています。ちなみに今年の恵方は「北北西」より正確には「北北西微北」だそうです。今年1年の会員の皆様の無病息災をお祈りいたします。

月信委員 松尾 繁樹

国際ロータリー 2740 地区
ガバナー事務所

〒847-0012 佐賀県唐津市大名小路1-54 唐津商工会館地下1階
TEL 0955 (53) 9061 FAX 0955 (53) 9062
E-mail : ri2740tsuji@vc.people-i.ne.jp

WEBサイト▶

